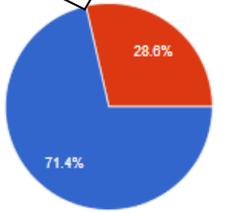
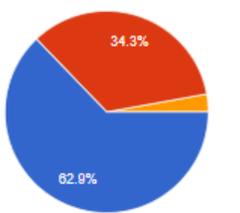
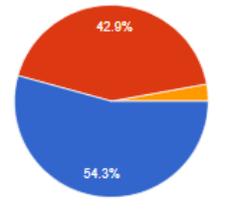
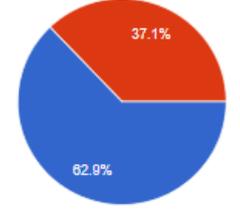
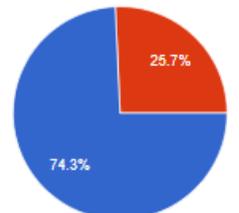
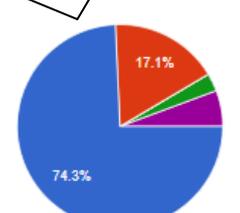


令和5年度 京橋朝海幼稚園 自己評価報告書				
園名：京橋朝海幼稚園		所在地：中央区築地2-13-1		
園長名：眞家 順子				
児児数 38名	学級数 3	教員数 4	職員数 9	
<p>1 重点目標の達成状況及び取組状況</p> <p>幼稚園評価を12月に実施する。回答者数は32人で91%の回答率となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> よくあてはまる あてはまる あまりあてはまらない あてはまらない わからない・無回答 </div> <p>【重点目標1 自然環境の中で知的好奇心を育む】</p> <p>評価指標：</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>自然物や飼育栽培物等、命ある対象との関わりを楽しみ、大切にしようとしているか</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>直接体験を通し、多様な気付きや意欲を得ることができているか</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>都会の中でも、自然と触れ合う経験を大切にできるよう、環境を整えてきた。今年度は、収穫した野菜を調理して会食することで、苦手な野菜を食べてみる意欲につながった。季節毎の栽培物、メダカやカブトムシの生き物等、世話をする経験を通し、愛着をもつ姿も見られるようになったが、興味のもち方には、個人差が見られた。そのため、教師が興味・関心を引き出せるような援助が必要である。また、種蒔きの時期を逃すことがあったため、次年度は、教育計画に栽培計画を載せ、教師が見通しをもち実施していく。</p> </div> </div> <p>【重点目標2 人と関わる力を育む】</p> <p>評価指標：</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>自分のやりたいことを実現させながら、友達との関わりを楽しんでいるか</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>園内の異年齢交流、異校種交流の経験をきっかけにして、人との関わりを広げていたか</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行にしたことにより、園内外の人との交流が複数実施できた。また、その様子を保護者にも伝えていくことを重視したことで、半数以上がよくあてはまるとの評価であった。また、日頃遊びの中で異年齢交流ができるように計画をたててきた。しかし、遊び以外でも人数が多いことで成立する活動において、異年齢交流を充実できるよう計画をしていく。</p> </div> </div> <p>【重点目標3 健康でたくましい体をつくる】</p> <p>評価指標</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>食に関連した環境（すくすくポタジェ）に興味をもって関わりを楽しんでいるか</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>各種（運動遊び、トライダー、ボルダリング、ロープ等）の取組を通し、自分の力を伸ばすことの充実感や達成感を感じているか</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>近年、握力の数値が下がってきているため、対応として、園内の遊具を計画的に取り組める機会を設けてきた。その成果として、鉄棒や雲底を使ったぶら下がりの測定を行った。結果は、1学期と3学期を比較すると平均、年少児は24秒、年中児は25秒、年長児は40秒とぶら下がれている時間が延び、握力がついたことがいえた。保護者とも、運動遊びの取組の様子を共有し、成長を共に喜べるようにしてきた。また、親子で運動遊びが出来る機会を今年度は複数実施してきた。保護者の中には、質問内容の理解が難しい様子があり無回答があったため、来年度は、よりわかりやすい質問にしていく。</p> </div> </div>				

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者による評価は 16 項目において、よくあてはまる、あてはまるとの回答を、82,9% から 100% でいただいた。保護者の幼稚園教育に対する理解が得られたといえる。

100%回答

問 5 : 幼児は伸び伸びと幼稚園生活を送っている。

問 10 : 幼稚園は幼児の安全を守る取組みをすすんで行っている。

問 14 : 併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている。

- ・降園時、保護者に担任から幼児の遊びや生活の様子を伝えた上で、その様子の写真をオンラインでも送っている。そのことで、話したことが視覚的にも伝わりやすく、幼稚園生活を伸び伸び送っていることへの理解につながった。
- ・様々な想定の下、小学校と一緒に毎月、避難訓練を行ってきたことや、築地警察指導のもと年長児が公道での歩行訓練など、安全への取組みが保護者に理解されている。
- ・今年度は、年長児が体験給食を 5 回、5 年生との交流給食を経験し、就学に向けて期待を膨らます経験ができた。また、年少児、年中児も 1・3 年生と交流を図り、小学生を身近に感じる経験ができた。近隣の幼稚園、保育園と定期的に交流し、幼稚園外の同級生の存在を知る経験もしてきた。

3 今後の改善方策

- ① 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況において、よくあてはまる、あてはまるとの回答数が増えるために、以下のことを改善していく。

82,9%回答

問 11 : 幼稚園は保護者にとって相談がしやすく、親身になって対応している。

問 12 : 幼稚園は家庭への連絡や情報提供に努め、すすんで子育て支援を行い家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている。

あまりあてはまらない、あてはまらないに回答した保護者に、どのようなところがそう感じさせたのか把握に努めた。

- ・仕事をしている家庭にとっては、年間計画予定の情報だけでなく、早めの予定を情報提供として欲している。園だよりで、当月の予定と翌月の主な行事を加え、伝えていく。
- ・幼稚園からお知らせしたつもりでも、保護者に伝わりきっていない状況もあったことを踏まえ、伝え方の工夫を図る。保護者の参観のある大きな行事については、早めのお知らせを努め、オンライン、口頭、紙面を併用するなどしていく。
- ・今まで以上に話をしやすい雰囲気を、保護者が感じられるように努める。保護者会、学級懇談会の他、登降園時に幼児の成長の姿を中心に、子育てに必要な見通しや情報が得られるようにしていく。

- ② 今後も、併設小学校と連携・地域との交流を図り、幼児にとって小学校への接続期の生活を保障していけるように努める。
- ③ 就学前の年齢を対象にした未就園児の会と年齢を問わない未就園児の会を、年間を通して定期的に実施し、入園前の地域の子育てセンター的役割を担う。